

(2) 北海道・東北ブロック関係

① 令和2年度社協・共同募金会事務局長合同会議 共同募金会分散会

開催日 令和2年9月9日(水)

実施方法 Zoom ミーティングによるオンライン開催

出席者 常務理事ほか職員

内容 ・令和3年度以降の共募業務主幹職員連絡協議会の当番県について
・北海道・東北ブロック各道県から寄せられた各協議題について(12件)

② 令和2年度北海道・東北ブロック共同募金会業務主幹職員連絡協議会

開催日 令和2年11月11日(水)

実施方法 Zoom ミーティングによるオンライン開催

出席者 係長ほか職員

内容 ・中央情勢について
・北海道・東北ブロック各道県から寄せられた各協議題について(14件)
・情報交換など

II 募金運動の推進等

1 共同募金運動の推進

(1) 共同募金運動実施計画の策定

社会福祉法第 119 条の規定に基づき、青森県社会福祉協議会から令和 2 年度共同募金に関する意見を伺い、本会としての見解と対応の方向を整理した上で第 1 回配分委員会、募金委員会、第 233 回理事会及び第 208 回評議員会における審議を経て「令和 2 年度共同募金運動実施計画」を策定した。

(2) 新型コロナウイルス感染症の影響下における共同募金運動の取組み

全国的な新型コロナウイルス感染症の影響や令和 2 年 4 月 7 日に政府より発令された「緊急事態宣言」等の状況を踏まえて、次のような取組みを実施した。(詳細は P 31「V 新型コロナウイルス感染症対策緊急支援活動助成事業等の実施状況」を参照)

① 新型コロナウイルス感染症の影響下における対応策の策定 (4 月 1 日～)

当面の本会事務の実施方針の策定及び事務局内での感染予防対策等を制定

② 新型コロナウイルス感染症対策緊急支援活動助成事業・緊急支援募金の実施 (4 月 10 日～)

本会独自の取組として実施し、5 月 8 日より全国キャンペーンに参加して、令和 3 年 3 月まで助成事業を継続

(緊急支援募金は 9 月 30 日まで、10 月以降は令和 2 年度共同募金として対応)

③ 令和 2 年度助成交付決定団体あてに事業計画変更等の取扱いについて通知 (4 月 15 日)

④ 市町村共同募金委員会との意見交換 (5 月 8 日～27 市町村)

⑤ 中央共同募金会の意見交換会等への参加と市町村共同募金委員会への情報提供

7 月 22 日共同募金検討会などにより「衛生配慮に係るガイドライン」等について情報提供

(3) 市町村共同募金委員会と連携した運動の展開

① 市町村共同募金委員会による募金活動

市町村共同募金委員会において、戸別募金に係る共同募金運動の説明と協力依頼を実施した。また、企業・団体に対し、法人募金、職域募金への協力を働き掛けたほか、各学校に対しても福祉教育を目的とした学校募金への協力を依頼した。

これらの実施にあたっては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、「募金運動実施にあたっての衛生配慮ガイドライン」を踏まえるとともに、法人等への依頼には非接触型の方法である「郵送」等の手法を活用した。

さらに、地域における社会資源を活用し、県内 42 か所の産地直売施設に募金箱やのぼり旗の設置を依頼したほか、地域の状況を踏まえつつ、衛生配慮ガイドラインに沿った形での街頭募金やイベント募金等を実施した。

② 関係機関に対する運動資材の提供

市町村共同募金委員会、小・中・高等学校、その他関係機関に、赤い羽根・ポスター・組み立て式募金箱等の運動資材を提供した。

③ 各種イベント等におけるイベント募金の実施

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による各種イベントの中止に伴いイベント募金の実施数は減少した。

(プロスポーツチームとの協働による募金活動の実施状況については、P21 に記載)

④ 市町村共同募金委員会オリジナル資材（ピンバッジ・戸別募金ステッカー）作成事業

市町村共同募金委員会におけるご当地キャラクターを活用した「ピンバッジ」や「戸別募金ステッカー」を作成し、地域全体で「共同募金運動」を行っているイメージを住民に持ってもらうと共に、地域で集められた募金はその地域で活用されていることを、これまで以上に住民に印象付けることを目的に実施した。

【実施市町村数：18市町村（参考：令和元年度7市町村）】

ア) ご当地キャラクターと作成個数・募金実績

	市町村名	使用キャラクター	ピンバッジ作成数	ステッカー作成枚数	参加回数	募金実績
1	弘前市	たか丸くん	800		3	336,349 円
2	八戸市	ヴァン太	500	74,040	2	217,507 円
3	黒石市	にゃんごすたー	1,000	33,000	初	888,735 円
4	五所川原市	ごしよりん	500	16,000	初	133,581 円
5	つがる市	つがるちゃん	1,000	16,000	2	616,000 円
6	平川市	ヤーヤくん	500		初	233,202 円
7	鱒ヶ沢町	ヒラメとツケどん	600	4,000	2	271,000 円
8	深浦町	ゆうひくん	500	4,000	初	188,000 円
9	西目屋村	ブナッキー	500	550	2	68,632 円
10	藤崎町	ふじ丸くん、 ジャン坊くん	500		2	172,600 円
11	大鰐町	わに	500		初	173,325 円
12	板柳町	あぷりん	500	5,000	初	151,401 円
13	鶴田町	つるりん	500	5,500	初	141,100 円
14	六戸町	メイプルくん	500	5,000	初	78,250 円
15	おいらせ町	おいらくん	500	9,600	初	89,500 円
16	佐井村	うんたん		1,000	初	
17	三戸町	11ぴきのねこ	500		初	545,000 円
18	田子町	たっこ王子	500	2,000	2	148,500 円
			9,900	175,690		4,452,682 円

イ) 活用方法

【ピンバッジ】

県共募及び市町村共募において、500円以上（黒石市、鱒ヶ沢町、三戸町は1,000円以上）の寄付に対するお礼としてピンバッジを活用した。

- ① 市町村の行政職員（管理職以上を想定）を対象に、毎年10月1日から胸に付けていただいている「赤い羽根」を、「オリジナルピンバッジ」に替えていただくことによる普及活動。
- ② 市町村共同募金委員会の窓口での募金者及び当該共同募金委員会が定める募金運動において活用
- ③ 青森県共同募金会における共同募金寄付者への提供
- ④ 共同募金運動の広報活動における活用

【戸別募金ステッカー】

戸別募金のお礼として、これまでの赤い羽根に替えて活用した。

ウ) ピンバッジ図案と作成個数 (全 17 種)

<p>弘前市</p>  <p>800 個 (500 円以上)</p>	<p>八戸市</p>  <p>500 個 (500 円以上)</p>	<p>黒石市</p>  <p>1,000 個 (1,000 円以上)</p>	<p>五所川原市</p>  <p>500 個 (500 円以上)</p>	<p>つがる市</p>  <p>1,000 個 (500 円以上)</p>
<p>平川市</p>  <p>500 個 (500 円以上)</p>	<p>鱒ヶ沢町</p>  <p>600 個 (1,000 円以上)</p>	<p>深浦町</p>  <p>500 個 (500 円以上)</p>	<p>西目屋村</p>  <p>500 個 (500 円以上)</p>	<p>大鰐町</p>  <p>500 個 (500 円以上)</p>
<p>藤崎町</p>  <p>500 個 (500 円以上)</p>	<p>板柳町</p>  <p>500 個 (500 円以上)</p>	<p>鶴田町</p>  <p>500 個 (500 円以上)</p>	<p>六戸町</p>  <p>500 個 (500 円以上)</p>	<p>おいらせ町</p>  <p>500 個 (500 円以上)</p>
<p>三戸町</p>  <p>500 個 (1,000 円以上)</p>	<p>田子町</p>  <p>500 個 (500 円以上)</p>			

エ) 戸別募金ステッカー図案と作成毎数 (全13種)

八戸市 (74,040 枚) 黒石市 (33,000 枚) 五所川原市 (16,000 枚) つがる市 (13,520 枚) 鯉ヶ沢町 (4,000 枚)



深浦町 (4,000 枚) 西目屋村 (550 枚) 板柳町 (5,000 枚) 鶴田町 (5,500 枚) 六戸町 (5,000 枚)



おいらせ町 (9,000 枚) 佐井村 (1,000 枚) 田子町 (2,000 枚)



オ) 市町村オリジナルピンバッジ等紹介市町村長表敬訪問【再掲】

令和 2 年度に新たにオリジナルピンバッジを作成する市町村長を本会会長等が訪問し、ピンバッジ等の紹介を行い、共同募金運動への協力を依頼した。

市町村数	訪問期日・市町村名
10 市町村	9/2 : 五所川原市・大鰐町 9/3 : 板柳町 9/4 : 平川市 9/15 : 三戸町 9/17 : 鶴田町 9/18 : 六ヶ所村・おいらせ町 9/23 : 黒石市、9/28 深浦町

(4) 多様な募金手法による募金運動の実施

①テーマ型募金額（令和3年1月1日から3月31日）

地域課題解決のために取り組むテーマ型募金について、市町村共同募金委員会を通じた仕組みづくりなどを通じて普及拡大を図った。

【テーマ型募金の団体ごとの実施状況（☆印は目標達成を示す）】

（単位：円）

No	団体名（丸数字はエントリー回数）	目標額	実績額 (令和3年3月31日現在)
1	①西目屋児童クラブやまぼと（西目屋村）	200,000	82,263
2	①ペントハウスこども食堂（青森市）	300,000	☆ 1,040,000
3	①社会福祉法人青森県社会福祉協議会（青森市）	300,000	107,405
4	②青森県民生活協同組合（青森市）	1,000,000	222,455
5	③みんなの食堂アエール（青森市）	300,000	☆ 323,229
6	③青森ミュージックイベントプランナー（青森市）	200,000	☆ 212,000
7	③日本ダウン症協会青森県八戸支部八戸小鳩会（八戸市）	210,000	☆ 260,146
8	④NPO 法人子育て応援隊ココネットあおもり（青森市）	200,000	☆ 324,274
9	⑤公益社団法人あおもり被害者支援センター（青森市）	300,000	☆ 699,770
10	⑥むつ市花のまちづくり実行委員会（むつ市）	500,000	☆ 539,460
11	⑥認定NPO 法人斗南どんどこ健康村（むつ市）	400,000	0
合 計		4,110,000	3,811,002

②寄付つき商品

共同募金の趣旨に賛同する各企業（団体）との共同企画を実施し募金運動の普及に努めた。

【株式会社ユニバース】

事業名	あったかあおもりプロジェクト～しあわせ運ぶお買い物～
期 間	令和2年5月1日～6月30日
寄付つき 商 品	5月1日～31日 サントリー天然水ペットボトル、缶コーヒーBOSS 各種 6月1日～30日 サントリーグリーンダカラペットボトル各種、濃縮タイプ各種
内 容	県内38店舗で寄付つき商品を販売。売上本数1缶につき2円の寄付
寄付金額	1,054,512円（売上本数527,256本）

【社会福祉法人道友会】

事業名	笑顔で応援プロジェクト
期 間	通年
寄付つき 商 品	天下一品味噌 430g、無添加100%リンゴジュース 1000ml、山ぶどう 100%原液 720ml、 活活高濃度水素水 500ml
内 容	法人内各施設、階上・南郷道の駅で販売（販売事業収入の1%の寄付）
寄付金額	令和元年度 75,000円

【株式会社ヤマモト食品】

事業名	①夏の福箱セット ②冬の福箱セット
期 間	①令和2年6月15日から8月20日まで ②令和2年11月4日から12月25日まで
寄付つき 商 品	①夏の福箱セット※ヤマモト食品主力商品が19個入ったお得なセット ②冬の福箱セット※ヤマモト食品主力商品が19個入ったお得なセット
内 容	1セット(販売価格5,670円)につき567円を新型コロナウイルス緊急支援募金と赤い羽根共同募金へ寄付
寄付金額	①274,428円 ②317,520円 合計591,948円(①+②)

【青森県民生活協同組合・みちのくコカ・コーラボトリング株式会社】

事 業 名	地域貢献プロジェクト
期 間	令和2年10月1日～12月31日(赤い羽根弁当、爽健美茶等)
寄付つき 商 品	赤い羽根弁当5種(県民生協)、爽健美茶等7種(みちのくコカ・コーラボトリング)
内 容	・県内12店舗において、「赤い羽根弁当」5種及び「爽健美茶等」7種を寄付つき商品として販売、弁当1個につき3～10円の寄付、爽健美茶等1本につき2～4円の寄付
寄付金額	①赤い羽根弁当 574,480円(売上個数124,407個) ②爽健美茶等 117,924円(売上本数55,030本) ③店舗用募金箱等 31,251円 計:(①+②+③)723,655円

(5) 赤い羽根寄付つき自動販売機の設置による取り組み

飲料メーカーの協力による赤い羽根寄付つき自動販売機を活用し募金を推進した。

No	企業名	設置個所	設置台数	募金額 (単位:円)
1	ハートフルベンダー	2ヶ所	3台	19,127
2	コカ・コーラボトリング	9ヶ所	11台	85,683
3	ダイドードリンコ	12ヶ所	12台	86,176
4	伊藤園	2ヶ所	2台	23,295
5	みちのくキャンティーン	8ヶ所	8台	87,882
合 計		33ヶ所	36台	302,163

(6) 県内企業の協力による募金活動

ア) 株式会社トヨタレンタリース青森(青森市)

県内全店舗(19店舗)に募金箱及びのぼり旗を設置し、募金箱に寄せられた募金(36,435円)と同社から寄付金(36,435円)の合計72,870円が本会に寄付された。(P28参照)

イ) 県内企業等の協力によるイベント募金実施状況

	実施日	企業・団体名	イベント名 (県共募取扱募金額)
1	9月6日	株式会社ラインメール青森 (青森市)	ラインメール青森 FC ホーム戦 (募金額 12,421 円)
2	9月13日	株式会社ヴァンラーレ八戸 (八戸市)	ヴァンラーレ八戸 FC ホーム戦 (募金額 13,830 円)
3	9月27日	社会福祉法人青森県すこやか福祉事業団 (青森県長寿社会振興センター)・ 株式会社ラインメール青森 (青森市)	シニアフェスティバル・ラインメール青森 FC ホーム戦 (募金額 12,543 円)
4	10月3日	株式会社ヴァンラーレ八戸 (八戸市)	ヴァンラーレ八戸 FC ホーム戦 (募金額 22,521 円)
5	10月10日~11日	青森スポーツクリエイション株式会社 (むつ市)	青森ワッツホーム戦 (募金額 67,170 円)
6	10月18日	株式会社ラインメール青森 (青森市)	ラインメール青森 FC ホーム戦 (募金額 12,620 円)
7	10月25日	青森スポーツクリエイション株式会社 (青森市)	青森ワッツホーム戦 (募金額 35,915 円)
8	10月25日	株式会社ヴァンラーレ八戸 (八戸市)	ヴァンラーレ八戸 FC ホーム戦 (募金額 20,278 円)
9	11月5日	アンサンブル・ダ・カメラ (八戸市)	チャリティーコンサート募金及び寄付金 (募金・寄付金額 38,828 円)
10	11月8日	株式会社ラインメール青森 (青森市)	ラインメール青森 FC ホーム戦 (募金額 16,605 円)
11	11月15日	株式会社ヴァンラーレ八戸 (八戸市)	ヴァンラーレ八戸 FC ホーム戦 (募金額 13,180 円)
12	11月22日	Gosho Marche イベント募金 ごしょマルシェ (五所川原市)	会場内イベント募金 (募金額 8,799 円)
13	11月22日~23日	青森県営浅虫水族館 (青森市)	水族館内イベント募金 (募金額 60,400 円)
14	12月6日	株式会社ヴァンラーレ八戸 (八戸市)	ヴァンラーレ八戸 FC ホーム戦 (募金額 20,946 円)
15	12月20日	青森スポーツクリエイション株式会社 (弘前市)	青森ワッツホーム戦 (募金額 27,800 円)
16	令和3年 1月17日	青森スポーツクリエイション株式会社 (弘前市)	青森ワッツホーム戦 (募金額 18,250 円)
17	2月7日	青森スポーツクリエイション株式会社 (八戸市)	青森ワッツホーム戦 (募金額 33,210 円)
18	3月7日	青森スポーツクリエイション株式会社 (青森市)	青森ワッツホーム戦 (募金額 30,271 円)
19	3月21日	青森スポーツクリエイション株式会社 (青森市)	青森ワッツホーム戦 (募金額 18,450 円)
	計		484,037 円

(7) 税制上の優遇措置等の普及拡大

寄付金に係る税制上の優遇措置（寄付金控除・寄付金税額控除及び損金算入制度）の周知に努め、個人及び法人からの募金運動への参加の拡大を図った。

領収書発行枚数 1,044 枚（14,279,842 円）

【内訳 法人 667 枚（9,262,871 円） 個人 377 枚（5,016,971 円）】

(8) インターネット等を活用した募金の推進

テーマ別募金への募金手法のひとつとして、ホームページ上からクレジットカード及びネットバンキングで寄付ができる「ふるさとサポート募金（通称：「ふるサポ」）」を周知した。

募金件数 37 件

募金額 901,875 円

(9) 第 74 回共同募金運動開始行事について

令和 2 年 10 月 1 日に青森市内において第 74 回共同募金運動開始行事の実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防のため運動開始行事を中止とした。

なお、74 回目の共同募金運動の周知等を図るため、青森県知事への厚生労働大臣メッセージの伝達を次のとおり実施した。

期 日：令和 2 年 10 月 1 日（木）

場 所：青森県庁

出席者：青 森 県 三村知事
青森県共同募金会 元木会長、工藤常務理事
ANA空港所 岡田所長
ANAセールス青森営業所 峯尾 所長

内 容：三村知事に対して、元木会長から厚生労働大臣メッセージを伝達した。



2 広報活動の推進

(1) 関係団体等への協力依頼

① 鉄道駅舎へのポスターの掲示

青い森鉄道（26 駅）及び津軽鉄道（12 駅）の全駅舎にポスターを掲示するとともに、両社の車両に共同募金運動に関する中吊り広告を掲示した。

② 企業への協力依頼

株式会社トヨタレンタリース青森に対し、ポスター掲示や募金箱の設置、職域募金等の協力を依頼した。また、株式会社マエダに対し、ポスター掲示を依頼した。

③ 過去に助成を受けた施設の共同募金運動への協力

前年度に共同募金の助成を受けた社会福祉施設に対し、ポスター掲示や募金箱の設置、職域募金等の協力を依頼した。依頼団体数 110 団体

④ 各省庁出先機関等への協力依頼

各省庁出先機関、県内水産関係機関及び県内大学（計 70 ヶ所）に対し、ポスター掲示や募金箱の設置、職域募金等の協力を依頼した。

(2) 各種広報媒体の活用等

① ホームページの活用及び赤い羽根データベースはねっとによる情報提供

寄付金贈呈式や各種事業実施状況等を随時掲載したほか、市町村共同募金委員会に各種研修資料や様式等を掲載し情報提供を行った。さらに遺贈寄付や相続寄付に関する web ページを作成し普及を図った。

赤い羽根データベースはねっと（中央共同募金会運営）に助成・募金実績等を入力し、共同募金に関する情報公開と広報の充実を図った。

② SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の活用

ツイッターやフェイスブック利用者に対して、イベント募金等の注目情報などについて随時、情報発信を行った。

③ 情報誌「赤い羽根」の配布

市町村共同募金委員会に、募金、助成及び広報等運動全般に関する情報を提供するため、中央共同募金会発行の企業向け情報誌「赤い羽根」を配布した。

④ 市町村共同募金委員会等の広報誌への情報提供

市町村共同募金委員会に対して公募助成に関する情報提供を行い、地域の各団体等に対する公募助成事業の周知拡大を図った。

⑤ 県民福祉プラザ「デジタルサイネージ」の活用（令和元年度より）

県民福祉プラザ 1 F エントランスに設置されている「デジタルサイネージ」で共同募金運動に関する広告を放映し、来館者への広報の充実を図った。

(3) 共同募金運動資材の活用

① 青森県共同募金会の運動資材

共同募金の地域性をアピールするため、次の運動資材を作成し、県内各町内会、市町村共同募金委員会及び関係機関等に配布し、10月1日からの共同募金運動に活用した。

- 全戸配布用チラシの作成 402,250枚
- オリジナルタオルの作成 5,790枚
- オリジナルボールペンの作成 3,640本
- 青森ワッツ×赤い羽根共同募金オリジナルクリアファイルの作成 800枚
- ヴァンラーレ八戸×赤い羽根共同募金オリジナルクリアファイルの作成 2,100枚

【新】○ラインメール青森×赤い羽根共同募金オリジナルクリアファイルの作成 1,600枚

② 市町村共同募金委員会との共同企画による運動資材（ピンバッジ・戸別募金ステッカー）の作成（再掲）

③ その他の運動資材

共同募金運動の周知を図るため、中央共同募金会及び北海道共同募金会が作成した運動資材（「鬼滅の刃」クリアファイル等）を活用した。

(4) 学校における共同募金運動に対する理解促進

○赤い羽根共同募金作文・ポスター作品コンクールの実施

県内の小・中学校の児童生徒を対象に、社会福祉に対する理解と助け合いの心を育成することを目的に次のとおり実施した。（作文の部 400字詰原稿用紙3枚以内、ポスターの部 四つ切画用紙）

募集期間 令和2年8月3日（月）から9月7日（月）

募集対象 県内の小学生及び中学生

【応募総数 722点】

区 分	作文の部		ポスターの部	
	令和2年度	令和元年度	令和2年度	令和元年度
小学校	8点（7校）	4点（4校）	217点（15校）	24点（12校）
中学校	244点（15校）	63点（6校）	253点（16校）	191点（13校）
合 計	252点（22校）	67点（10校）	470点（31校）	215点（25校）

【受賞数 51点】

区 分	最優秀賞	優秀賞	佳作	努力賞
作文の部 小学校	1	2	3	2
作文の部 中学校	1	2	3	10
ポスターの部 小学校	1	2	3	6
ポスターの部 中学校	1	2	3	9
合 計	4	8	12	27

※ポスターの部の最優秀賞及び優秀賞作品については、11月10日開催予定の第69回青森県社会福祉大会において展示することとしていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、同大会式典が中止とされた。

このため、次により「赤い羽根ポスター作品展」を実施した。

11月17日～29日 県民福祉プラザ（青森市）

12月1日～14日 イオンモール下田（おいらせ町）

【赤い羽根ポスターコンクール 最優秀賞受賞作品】



小学校の部 最優秀賞 八戸市立桔梗野小学校 5年 向谷地 美優 さん



中学校の部 最優秀賞 六戸町立六戸中学校 2年 十文字 顕誠 さん

(5) 報道機関等を活用した広報活動の展開

10月1日付け新聞紙面上に、東奥日報社、デーリー東北新聞社、陸奥新報社の協力を得て協賛広告を掲載した。9月下旬から10月にかけて、RABラジオ、FM青森の協力を得てラジオスポットCMを放送した。さらに、10月から3月までの運動期間中、青森放送、青森テレビ、朝日放送でテレビスポットCMを放映した。

また、新型コロナウイルス感染対策支援活動助成事業の助成決定状況や寄付金贈呈式の実施などについて、随時、報道機関に情報提供し、取材及び記事掲載などについて協力依頼を行った。その結果、令和2年度中における本会及び市町村共同募金委員会関係の新聞記事等掲載数は70件（本会の確認分）となっている。